

30 余年に亘る日本の代表的 ODA プロジェクト

「ジャカルタ漁港・魚市場整備計画」(インドネシア)

株式会社パシフィックコンサルタンツインターナショナル

インドネシア国は世界で第6位の漁業国家であるにもかかわらず、漁業インフラ整備や漁業資源を持続的に活用するための管理体制が不十分であった。1977年、OECF(現JBIC)の円借款として、ジャカルタ特別市におけるジャカルタ漁港の整備がスタートした。それから25年あまりが経過。ジャカルタ漁港整備事業は、その間ひとりのコンサルタントの熱意のもと4期に亘り継続して行われ、現在では常時約300の漁船が係留し、取扱量年間約16万トン、水産物の取扱額約1億円/日(現地価格)、3万人の人々に労働の機会を提供する、漁港・水産物流センター・水産加工センターの3機能を有する世界有数の水産複合施設に発展した。

また、インドネシアで豊富な天然竹を活用した護岸・防波堤や「潮位差を利用した港内水質浄化システム」、或いはマングローブ護岸などインドネシアのリソースと自然のリソースを最大限に活用した案件である。なお、4期分のインフラ部分への円借款供与額は合計で約126億円、民間投資が200億円となっている。

このプロジェクトにより、何もなかった海面に約80haの大水産複合施設が誕生し、また200海里経済水域を最大限に利用できるようになった。当該港湾関係で働く人は3万人を越え、その家族を含むと15万人が現在当該港湾に依存している。

本プロジェクトは、2004年1月にテレビ東京で放映されるなど、多くのメディアで紹介されている。25年に亘るオールジャパン(JICA、JBIC、民間)の支援が確実な成果を实らせた案件である。

(ジャカルタ漁港ウェブサイト: www.jakartafishport.com)

